

研究員 の眼

2017 年婚姻届における 初婚男女の年齢組み合わせランキング④ ーなぜ結婚希望が叶わないのかー 40 代男性編／妻の年齢ゾーン別分布状況

生活研究部 准主任研究員 天野 馨南子
(03)3512-1878 amano@nli-research.co.jp

【はじめに】

本シリーズでは、2017 年に婚姻届が提出された初婚同士の結婚のうち、同年内に生活を開始した 36 万件のカップルについて、夫婦の年齢ゾーンの組み合わせの分析結果の詳細をレポートしている。前回までの分析で、もし初婚を目指す男性が 20 代の妻を希望するのであれば、

「自分が 20 代のうちに結婚を決める覚悟が必要であり、遅くとも 30 代前半までに活動すること」

が、レッドオーシャン活動とならないための活動適齢期（婚期）であることを紹介した。

今回は、2017 年に 40 代で初婚をむかえた男性の妻の年齢分布について、これまでと同様に分析結果を見てみることにしたい。

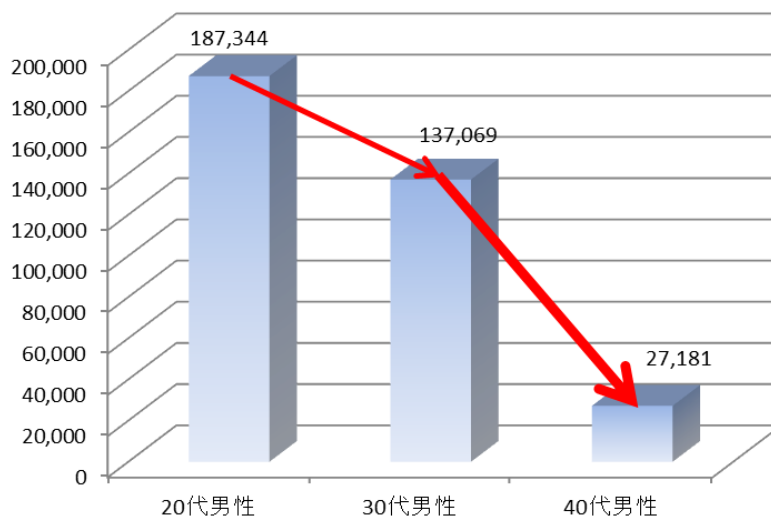
【40 代男性の結婚相手の年齢ゾーン別分布状況】

まず、40 代男性の初婚についておさえておきたいポイントは、割合を議論する前に、成婚発生件数（実数）そのものの急激な減少がおこることである。

20 代男性の成婚は 18 万 7344 件、30 代男性の成婚は 13 万 7069 件であり、20 代と 30 代でみた年代上昇による件数の減少率は 27%であった。

それに対して、40 代男性の成婚は 2 万 7181 件まで減少し、30 代男性と比較しても、実に 80%減少という高い減少率となっている（図表 1）。

【図表 1】2017 年成婚男性の年代別件数（件）



資料）厚生労働省「人口動態調査」より筆者作成

以上から、どうしても成婚したい、という場合、30代までがいわゆる男性の活動適齢期（婚期）となり、

40代になると一気に成婚そのものが非常に厳しい状況となる

点にまずは留意が必要である。

現在、日本は人口構造的には年齢が上の層になるほど多くなる逆ピラミッド構造であることから考えても、年齢上昇がいかに成婚に障壁となるかが顕著に示唆されている結果とみることが出来る。

ちなみに、2015年の国勢調査において20代未婚（婚歴なし、以下同じ）男性は498万人、30代未婚男性は306万人、40代未婚男性は252万人であった。これを母数とした2017年の男性の1年あたり年代別婚姻発生確率は、20代30代は4%であったのが、40代では1%となっている。これらは1年あたりなので、10年でみた年代あたりの結婚確率は、単純計算で10倍して20代30代は40%、40代は10%となっている。

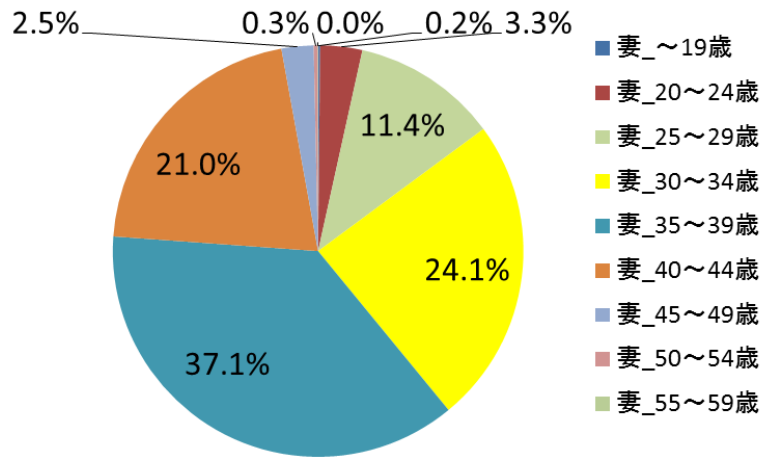
次に40代男性の成婚2万7千件について、前回までと同様に40代前半と後半に分けて、相手女性の年齢ゾーン別成婚組み合わせで見てみることにする。

40代男性の成婚2万7千件のうち、前半男性：後半男性＝3：1となっており、40代男性の成婚の4組に3組は前半男性の成婚によるものである。このことから、結婚希望があるならばいかに早期に取り組む必要があるかが示唆されている。

40代前半男性2万人のパートナーとして最も多かった相手女性の年齢ゾーンは、37%（7526件）

で30代後半であった。次に多かったのは30代前半女性の24%（4900件）と40代前半女性の21%（4261件）で、2位3位はほぼ同率であった。この3パターンで82%を占める。

【図表2】2017年成婚男女の年齢組み合わせ／40代前半男性とその妻の年齢分布（%）



資料）厚生労働省「人口動態調査」より筆者作成

また4番目は20代後半妻の11%となり、年齢ゾーンで見た「年上妻との成婚」は33組に1組の3%にとどまったことから、40代前半男性は自分より明らかに上のゾーンの女性とのカップリングの成立が僅少となる。

以上から40代前半の男性の結婚は、

- ① 30代後半の女性：30代前半の女性：40代前半の女性：20代後半の女性 が
ほぼ 4：2：2：1（注：40代前半は自分より年上・年下女性ともに含む）
- ② 30代女性との結婚が61%、40代女性との結婚が24%、20代女性との結婚が15%
- ③ 年齢ゾーンでみても年上の妻との結婚は3%で33組に1組程度

という状況がみてとれる。

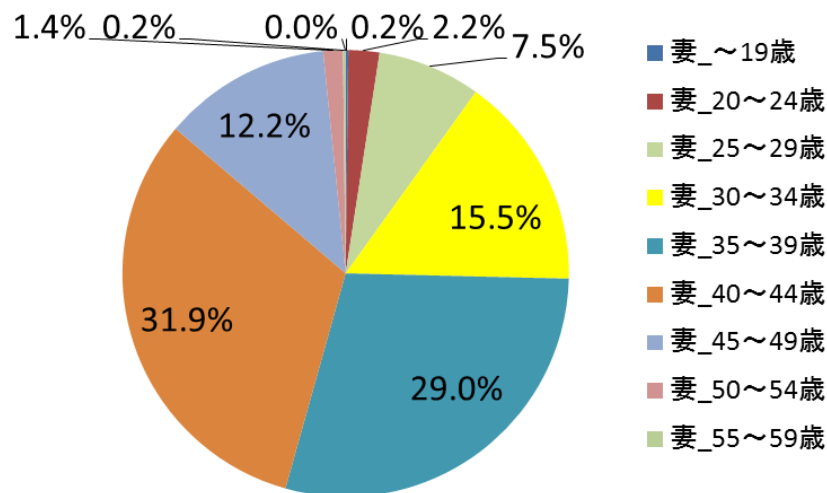
こういったデータを示すと「15%も20代女性と結婚できているのか」といった感想が聞かれ易いが、そもそも40代での成婚が非常に厳しい中で、特に成婚に至った男性についてみると、という前提条件がセットとなることを確認しておきたい。

次に、40代後半の男性の結婚6891件についてであるが、あくまで全成婚の1.9%の発生確率であるために、以下で示す割合の多寡に関わらず、非常に発生確率が低い（達成困難な成婚である）ことを留意の上で、グラフをみてみたい。

最も多かった組み合わせは、1つ下の年齢ゾーンとなる40代前半女性との成婚2196件で、3割を

超えた（図表 3）。2 番目に多いのは、僅差で 30 代後半女性との結婚の 1996 件で、この 2 タイプで全体の 6 割を超える。次に 30 代前半女性との結婚 16%、40 代後半女性との結婚 12%が続く。30 代 40 代の女性との結婚で 89%となっている。

【図表 3】2017 年成婚男女の年齢組み合わせ／40 代後半男性とその妻の年齢分布（%）



資料）厚生労働省「人口動態調査」より筆者作成

以上から 40 代後半の男性の結婚は、

- ① 40 代前半：30 代後半：30 代前半：40 代後半 が、ほぼ 3：3：2：1 で発生
- ② 40 代の女性との結婚が 44%、30 代女性との結婚が 44%で 1：1
- ③ 年齢ゾーンでみても年上の妻との結婚は 2%で 50 組に 1 組程度

ということが出来る。

40 代前半男性と比べると、30 代女性との結婚が 61%から 44%に減少し、40 代妻の割合が 24%から 44%へと、ともに大きく変化する。「どうしても 30 代女性で」という条件を掲げる場合は、遅くとも 40 代前半までに活動することが求められる。

【40 代男性の結婚は困難化、少子人口減少社会では若い女性との結婚はさらに厳しい】

40 代前半男性の同年齢ゾーン女性との成婚は 21%であるが、40 代後半男性の同年齢ゾーンとの成婚は 12.2%へと減少する。[シリーズ①](#)から④の結果からは、高齢で初婚を迎える男性ほど、妻の年齢ゾーンからみて、女性の若さを選好する姿がうかがえる。

しかしながら、出生数が半世紀も経過せずに半減以下となっている（2017 年出生数は 1970 年出生数の 48%）中で、世代間人口数のギャップから、若い女性との結婚希望者はかつてないほどに苦戦を強いられている。

ⁱ 2015 年国勢調査の結果によると、40 代人口 1840 万人、30 代人口 1561 万人、20 代人口 1238 万人で 40 代人口を 100% とすると、30 代 85%、20 代 67%となる。